ＮＰＯ学習塾全国連合協議会西日本ブロック

ＮＰＯ塾全協 ブロック通信

2017
4月

西日本ブロック事務局　〒564-0027 吹田市朝日町14-2 大松ビル４Ｆ　共学館義塾内　TEL (06) 6382 1224　FAX (06) 6382 1560

NPO 塾全協西日本ブロック理事長　山下典男

２０１７年度　ご挨拶

新年度を迎え、会員の先生方に於かれましてはお忙しくされていることと推察いたします。今年度もご健康に留意されながら塾全協の活動にもご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

昨年度は役員改選の年度で、長年務めていただいた後田多全国会長から沼田新会長に交代しましたが、西日本ブロックでは大きな変更もなく旧来の体制でスタートを切りました。ただ、9 月の長井副理事長のご逝去は塾全協全体のご意見番的な働きをしていただいていただけに誠に残念でなりません。長井先生の塾全協へのご期待に恥じない活動を今後も続けてまいりたいものです。

今年度の西日本ブロックの活動は、１１月４日の沖縄での全国研修大会を中心に行われます。全国に数ある学習塾の任意団体の中で、全国組織であること、そしてその歴史と本気で活動に取り組んでいるのは塾全協をおいて他に並ぶものはないと自負しています。会員の平均年齢は年ごとに 1 歳ずつ上がっていますが、会員の皆さんのみなぎる血潮は一切後退していませんので、ぜひ沖縄大会を成功に導きましょう。

第４３回全国研修大会実行委員長　後田多純寿

今年の全国研修大会は沖縄で開催されることになりました。大会実行委員長として多くの方に御参加頂き有意義な時間を過ごしてもらえますよう全力を注いでいく覚悟です。前夜祭から講演会そして懇親会まで沖縄のおもてなしの心を臨む所存です。
皆さん楽しみにしていて下さい。

西日本ブロックのこの１年

４月英語実践セミナー　西岡真理子『にしおかまり子の英語教室』パナソニックリゾート

淡路島で英語を教えている西岡先生の教授法と体験談。「やんちゃな子たちもきちんと叱ってきちんと面倒を見て教えてあげたら、熱心にやってくれるようになる」「小６の１月から教えて中学生になるまでの３ヶ月は英会話をみっちり教える。それをやっていくと中学へ行ったとき ALT の先生と話ができるので、自分が学習したことが役に立って自信ができて英語を好きになってくれて、そこから文法へ入っていくようにしている。」などの言葉が胸に残る。

English Village 見学記

大阪　吹田市　万博記念公園

「日本初 体験型英語教育施設」とあるレストラン、空港、ラスベガスなど２３カ所の、シチュエーションルームの中ですべて北米出身のネイティブスピーカーのインストラクターたちのレッスンをレベルに応じて受けることができる施設を訪問した。

５月　塾全協全国総会が東京で開かれ全国会長に沼田広慶(北辰館スクール)、東日本ブロック理事長に内藤潤司（ソロモン総合学院）が新たに選出される。

西日本ブロック総会が開かれ前年の活動と今年度予定、会計報告などが行われた。

７月　第３８回教科指導研修会

元 pre-international　school 講師の山崎美恵子先生に「こうすれば、すぐに英語が出てくる」と題して、ワークショップ形式を取り入れて研修をしていただいた。『久々に生徒になり、楽しく授業を受けました。プレスクールの子ども、幼児対象の指導法をもとに、当日は我々用にアレンジもしていただき実践してもらいました。「日本語で考えさせず、とにかく英語をしゃべらせる。」という考えで行っておられることで、注１～４は中学生でも十分使える。中学生用にアレンジして使ってみたい。』姫路の寺田先生のレポートより抜粋。　注１．英語で質問２.隣に座っている人に英語で質問をする。３.語句の置き換え練習４.語句の置き換え練習（発展）

７月　拡大理事会　　今後の活動についてセミナー、教科研修会などについての話し合いが行われた。

９月　第３９回教科指導研修会「自塾でできる、英検面接合格率１００％を目指す方法」

山本太志　先生　（千葉　四季青舎）

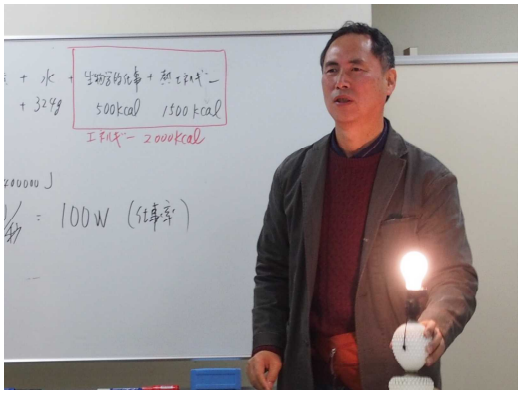
『英語を話せるためにはどうすれば良いか。彼は「暗唱である。」と言い切る。昔の人はもっと暗唱をしていたが、今はそうではない。日本の英語教育に暗唱をもっと取り入れるべきであり、塾全協でも「レシテーション大会」を実施すればおもしろいのではないかと話す。英検の面接の訓練で大切なポイントは何か。細かいことは省くが、①音読はゆっくりていねいに読むように訓練する（はやく読めればいいというわけではない）②話しやすい内容を考えておく。（質問されても言える内容）真実でなくてもよい。③短い文で簡単な単語を使う訓練をする。この３点をおさえておけば５分間の面接は乗り切れるだろうということだ。』地球塾中村勲先生のレポートより抜粋

上記の山本先生の研修会に来られた翌日くも膜下出血で長井泰次先生が亡くなられた。享年７４歳。
生前、厳しい表情の時はなるべく遠ざかるようにしていた(笑)。普段そこにいるはずの人が、突然いなくなったとき周りにいた人たちがそのことを受けとめ理解するには時間がかかる。塾全協の発展のためのきびしい言葉は時として反発も生んだがそれも含めて、その時々に必要だったんだなと今ごろになって気づくことが多くなった。

１１月　第４２回全国研修大会「英語教育の課題とその克服　パートⅢ」が東日本ブロック主催で東京のアルカディア市ヶ谷で催された。

第４０回教科指導研修会「これからの塾の授業を考える」

寺田圭吾先生（兵庫・あすなろ学園）は「社会の授業をどう進めるか」自塾での授業で板書を少しずつ消していく・チームで対抗戦にするなど暗記させていくときの工夫や受験対策などを話してもらった。「一般人として知っていて欲しい出来事や人物のことは教えるようにしている。」と語るように将来の社会人として必要な常識を伝えることを心掛けているという。筆者も社会を教えているが近年、社会に興味がない生徒が多くなっているので社会の授業は年々難しくなっている。加えて入試では記述問題が数多く出題されるので、ある出来事の原因と結果や社会的意義など歴史や公民でも教科書の細かいところまで理解し暗記しないと正解できない問題が増えている。関心が低い中で求められる生徒の興味を引く授業がますます講師の腕の見せ所となるだろう。



中村先生（大阪・地球塾）は「受験生への教え方」と題して中３理科の授業で私たちが行っている食物の消化・吸収、呼吸の役割について生徒が具体的なイメージできるように、酸素を使った呼吸と燃焼の類似性を化学反応式で表しその時発生するエネルギーが仕事としてどれぐらいの仕事率かを計算し提示する。呼吸がエネルギーを取り出しているとはどういうことなのかを数字や化学記号で表すことでより理解を深めようとする試みだ。理科ではこういう単元を横断した授業の進め方は珍しい。

寺田先生と中村先生に共通しているのはいかに興味を持たせるか、モチベーションアップが勉強に一番必要であるという意識だ。

１２月 拡大理事会・忘年会　和歌山県花山温泉 参加１２名うち３名は東日本ブロック

来年度の西日本ブロック主催で行われる研修大会は沖縄に決定。７時からは宴会。沼田会長の音頭で乾杯！料理はスッポンやクエの　鍋物がメインでしたが、刺身も鮮度が良く、流石和歌山。食事のあとは部屋で二次会。12　時近くまで騒いでいました。そこで出た話ですが、来年は東西合流の忘年会で、箱根でやろうという案が出ました。
（東日本ブロック・中村基一先生の写真と文より抜粋）

２０１７.１月　教材フェア in 関西

塾全協西日本ブロックと関西私塾連盟の共同主催による毎年１月恒例の西日本最大級の展示会が今年も催された。中学の教科書改訂があった昨年より入場者が少し減ったものの今年も多くの入場者で賑わった。年々、映像授業など紙以外の教材の出展が増えて時代の変化が感じられた。

受付
右から
白井先生
藤井先生
山下先生
村田先生

２月　拡大理事会が開かれ、主に今年１１月に開かれる沖縄での全国研修大会の内容について意見交換が行われた。

５月２８日全国総会・西日本ブロック総会　於フェイム新大阪

【編集後記】 入試が終わってようやく時間が空いたので森絵都の長編小説「**みかづき**」を読んだ。主人公の大島吾郎は塾を大きくすることより素朴に教えることが好きな最後までさわやかな男として描かれている。反対に妻となるしっかりものの千明は創生期には低かった塾の社会的認知に情熱を燃やし、文部省批判も厭わないで塾の経営に全身を傾ける女性として登場している。塾の合併話や娘の反抗と裏切りなど二人やその周りの人々に起きる様々なエピソードが繰り広げられ、作者の森絵都は塾の創生期から現在まで一気に駆け抜ける内容を、舞台劇のような生々しい迫力を読者に感じさせながら描いている。特に物語前半の文章表現は見事だ。作者は５００ページ近い長編を通して読者に「教育とは何か」という一つの大きな問いを投げかけているようだ。タイトルの「みかづき」の由来を「欠けている自覚があればこそ人は満ちよう満ちようと研鑽を積むのかもしれない」ところが教育と似ていると物語の終わり近くに作者は吾郎に語らせている。巻末の取材協力には市進ホールディングスや山田義塾、月刊私塾界、キッズドアなどの名前が並んでいる。
「**受験は母親が９割**」を遅ればせながら読んだ。著者は、長女が今春入試に合格して子供４人全員が東大理Ⅲに合格した母親である。「子供の勉強、受験をサポートすることを親がためらったり遠慮したりする必要は一切ありません。」と語り、子供の大学合格まで強烈な意志を持ってあらゆるサポートを実行していく。これは一つの壮大な実験とその成功の報告であり、３歳までに絵本１万冊童謡１万曲聞かせるところから始まって子供の歯磨きも小６まで一人あたり２０分かけて母親がやり、受験勉強の細かい計画から大学入試のホテル宿泊まで子供と行く徹底した管理による成功体験の話である。何より著者は自信にみなぎっていてその徹底ぶりは読んでいて清々しい。ご主人は東大卒の弁護士であり、優れた種の選択からこの計画は始まっていたに違いない。最難関の東大理Ⅲ合格という受験生を持つ親たちのホンネの欲望を見事に実現させた分、反発は必至であり星の数ほど批判もあると思われるが、すべてタテマエやキレイゴトとして扱われるであろう。現実的でそこに生半可なロマン主義が入る余地はない。その意味できわめて正直な告白本であり、学習塾は親のホンネの欲望に沿ったビジネスだと改めて思い知らされた本だった。　　**編集責任　Ｉ塾　平野芳英**